

ナイスネイチャ



1988年4月16日生 牡 鹿毛
父:ナイスダンサー
母:ウラカワミユキ(母の父:ハビトニー)
浦河・渡辺牧場生産
調教師:松永善晴(栗東) 馬主:豊嶋正雄氏→豊嶋泰三氏



グランプリに欠かせぬ名脇役

古馬を相手に重賞初挑戦初制覇を果たした3歳夏の小倉記念から、引退レースとなった8歳時のアルゼンチン共和国杯まで、JRA重賞34回連続出走という歴代最多記録を打ち立てたナイスネイチャ。強豪相手に死力を尽くして戦う姿を長くファンの記憶に刻み続けた存在だ。なかでも特筆すべきは、有馬記念3年連続3着という不滅の大記録である。

まずは3歳時の1991年、第36回有馬記念。ナイスネイチャは大外からの直線一気で大本命メジロマックイーンに襲いかかった。結局は届かず、またレース後の話題は単勝万馬券の大穴をあけたダイユウサクに集中したものの、ナイスネイチャの末脚も「あわや」の瞬間を作り出したことは確かだ。翌1992年、第37回有馬記念。4コーナーで外へと持ち出されたナイスネイチャは、メジロパーマーの逃げ切りを許すまいと真っ先に前を追いはじめる。追撃おぼす敗れるも、馬場の真ん中をタフに駆けて波乱の結末を盛り上げた。

そして1993年、第38回有馬記念。天皇賞(秋)15着、ジャパンカップ7着と結果を出せなかったナイスネイチャが、グランプリで一変、中団からジワジワと進出し、4コーナーでは外からトウカイテイオーに並びかけていく。すぐに突き放されてしまったが、まるで「この馬を負かさなければ勝利はない」と察知したかのような走り、競馬史に残る奇跡の復活劇に彩りを添えたのだった。

もちろん重賞34連戦の間には、京都新聞杯の豪快な差し切り、鳴尾記念で見た堂々の横綱相撲、2年7か月ぶりの勝利が大観衆の拍手に迎えられた高松宮杯と、印象的な先頭ゴールはあった。だがナイスネイチャの指定席といえば、やはり2着4回、3着7回、4着5回といった位置だった。ただし、スターホースたちに真正面から挑み、しかもマイルチャンピオンシップから天皇賞(春)まで距離を問わずに戦ったこと、そして毎度見せた懸命の走りを振り返れば、惜敗ではなく善戦と呼びたくなるのである。

1993年★第38回有馬記念(GI) 激しい追い比べを演じるトウカイテイオー(帽色・赤)とビワハヤヒデ(帽色・桃・左)を遥か前方に見ながら、ナイスネイチャ(帽色・橙)は3年連続のグランプリ3着でゴール。



1994年★第24回高松宮杯(GII) 後方追走から徐々に進出したナイスネイチャ(帽色・桃)が、スターバレーナ(帽色・黄)を交わして優勝。2年7か月ぶりに勝利の美酒に酔った。

年月日	場	レース名	距離	着順	タイム	騎手
1990.12. 2	京都	3歳新馬	芝1200	2	1:11.9	松永昌博
12.15	京都	3歳新馬	ダ1400	1	1:26.1	松永昌博
1991. 1. 5	京都	福寿草特別	芝2000	6	2:04.2	松永昌博
1.19	京都	若駒S	芝2000	3	2:02.5	松永昌博
7. 6	中京	なでしこ賞	芝1800	2	1:50.4	松永昌博
7.28	小倉	不知火特別	芝1800	1	1:49.8	松永昌博
8.10	小倉	はづき賞	芝1800	1	1:49.6	松永昌博
8.25	小倉	小倉記念(GIII)	芝2000	1	2:02.7	松永昌博
10.13	京都	京都新聞杯(GII)	芝2200	1	2:15.6	松永昌博
11. 3	京都	菊花賞(GI)	芝3000	4	3:09.8	松永昌博
12. 8	阪神	鳴尾記念(GII)	芝2500	1	2:36.3	松永昌博
12.22	中山	有馬記念(GI)	芝2500	3	2:31.1	松永昌博
1992.10.11	東京	毎日王冠(GII)	芝1800	3	1:45.9	松永昌博
11. 1	東京	天皇賞(秋)(GI)	芝2000	4	1:59.0	松永昌博
11.22	京都	マイルチャンピオンシップ(GI)	芝1600	3	1:33.7	松永昌博
12.27	中山	有馬記念(GI)	芝2500	3	2:33.7	松永昌博
1993. 1.24	京都	日経新春杯(GII)	芝2200	2	2:14.1	松永昌博
3.14	阪神	阪神大賞典(GII)	芝3000	3	3:09.4	南井克巳
4. 4	阪神	産経大阪杯(GII)	芝2000	2	2:04.1	松永昌博
10.10	東京	毎日王冠(GII)	芝1800	3	1:45.9	松永昌博
10.31	東京	天皇賞(秋)(GI)	芝2000	15	2:01.5	松永昌博
11.28	東京	ジャパンカップ(GI)	芝2400	7	2:25.1	松永昌博
12.26	中山	有馬記念(GI)	芝2500	3	2:31.6	松永昌博
1994. 1.23	中山	アメリカジョッキークラブC(GII)	芝2200	7	2:14.7	松永昌博
4. 3	阪神	産経大阪杯(GII)	芝2000	2	2:01.8	松永昌博
4.24	阪神	天皇賞(春)(GI)	芝3200	4	3:23.3	松永昌博
6.12	阪神	宝塚記念(GI)	芝2200	4	2:12.4	松永昌博
7.10	中京	高松宮杯(GII)	芝2000	1	2:00.7	松永昌博
10. 9	東京	毎日王冠(GII)	芝1800	6	1:45.1	松永昌博
10.30	東京	天皇賞(秋)(GI)	芝2000	7	1:59.1	松永昌博
11.27	東京	ジャパンカップ(GI)	芝2400	8	2:24.4	松永昌博
12.25	中山	有馬記念(GI)	芝2500	5	2:33.3	松永昌博
1995. 2.12	京都	京都記念(GII)	芝2200	2	2:12.0	松永昌博
10. 8	京都	京都大賞典(GII)	芝2400	8	2:26.0	松永昌博
11.26	東京	ジャパンカップ(GI)	芝2400	13	2:26.2	松永昌博
12.24	中山	有馬記念(GI)	芝2500	9	2:35.4	松永昌博
1996. 3.17	中京	トヨタ賞中京記念(GIII)	芝2000	4	2:02.6	松永昌博
4. 6	中山	ダービー卿チャレンジT(GIII)	芝1600	6	1:33.8	松永昌博
5.11	京都	京阪杯(GIII)	芝2200	8	2:13.6	松永昌博
10.27	東京	天皇賞(秋)(GI)	芝2000	10	1:59.7	松永昌博
11.16	東京	アルゼンチン共和国杯(GII)	芝2500	15	2:34.0	松永昌博

※レース名は当時の表記による